

学校関係者評価報告書(高等課程)

大阪YMCA国際専門学校
学校関係者評価委員会

2013年3月に文部科学省から「専修学校における学校評価ガイドライン」が発表されたことを機に、本校では、専門課程及び高等課程別に新しいガイドラインの評価項目に沿い、より教育内容と目標に合ったものに改めて、自己点検・自己評価を実施しております。
2017年度分は、自己点検・自己評価を2018年3月に実施しました。在校生・保護者、卒業生・卒業生保護者も同月にアンケートを実施しました。それらに基づき、下記日時に開催した「学校関係者評価委員会」において、以下の評価と意見がありましたことを報告いたします。
今後はこれらの意見、助言を踏まえ、よりよい学校運営と教育活動に努めてまいります。

開催日時 2018年9月3日(月) 10:00～12:00

開催場所 大阪YMCA国際専門学校 402B教室

学校関係者評価委員 学校関係者3人、理事長、副校長、学科長、主任2人、同法人内他校教頭、他校主任

総括

自己点検・自己評価・外部アンケート(在籍生・卒業生・保護者)は全体的に高い評価となっている。特に外部アンケートは、保護者から高評価をいただき、学校との信頼関係ができていと推察される。自己評価・自己点検では「教育理念・目的・人物育成人材像」が3.79、「学習成果」3.64、「法令順守」3.65、「国際交流」3.81と高評価、学校関係者評価も「教育理念・目的・人物育成人材像」「国際交流」が3.9、「法令順守」3.8と高い評価をだしている。施設面においては、施設設備で特徴をだす学校ではないが、ICTを進めることや、施設自体は老朽化しているが毎年補修を行い、机・イスは3分の1を新しいものに入れ替え、今後も順次行っていく。
自己点検、自己評価は総合職だけではなく嘱託教員まで範囲を広げている。評価というよりスタッフの理解度や設問の取り方によって値が変わってくるのではないかと、という学校関係者から意見がでた。また、経営面でよく知らないだろうことが高い評価で、生徒支援など力をいれている項目が低めになっている。これらは高い目標があること、自分自身に厳しい評価を与えていることからだと思うが、もっと自信をもつべきだという意見もいただいた。全般として教職員が生徒のために尽力し、かつ密な情報交換を行っている結果がでていると思われる。教職員が常に生徒の幸せを願い、理念に沿った形で生徒支援をしていることが評価されている成果である。学校関係者からは、前年度からあまり変化がないことに対して、変化しにくくなっている、安定していることに危機感を持つ必要があるという示唆もいただいた。

学校関係者評価会用資料(高等課程分)

*赤字 昨年度よりポイントがあがった

*4段階 4ー適切 3ーほぼ適切 2ーやや不適切 1ー不適切

評価項目	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
	平均	評価項目総括	平均	学校関係者評価委員会からの意見
(1) 教育理念・目的・人物育成人材	3.8	どの項目もすべて評価が高くなり、(昨年平均「3.56」)となり、会議や日常の中で周知していることが見られる。	3.8	国際学科生はスクールモットーに賛同し、納得して入学している。スタッフもスクールモットーが好きで、授業の中でも折々にスクールモットーは言葉にだされ、定着している。そのことは評価できる。
1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3.8	在校生保護者、卒業生保護者に関しても、教育理念、方針についても「適切に伝えられている」がそれぞれ80%、74%と高評価である。	4	
1-2 学校におけるキャリア教育その他の教育指導等の特色は明確か	3.9	1-1 YMCAの「精神・知性・身体」の調和の取れた全人教育の理念を本校の教育理念としパンフレットやホームページに明記、生徒には学校説明会やオリエンテーション、日常の指導の中で伝えている。	4	表現・コミュニケーション学科では、私たちの「学校方針」について改めて生徒・保護者に伝えていない。体現はしているが、細かな文章を伝えておらず、「表コミWAY」という一言でいえる言葉になっている。しかし、最近はその言葉は会議などでも出てこないもので、方針は毎年確認する必要がある。
1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.8		3.75	
1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか	3.7	1-4 在校生・卒業生にはよく周知されている。在校生の理念・方針理解は77%、卒業生に至っては88%が適切となっている。表現・コミュニケーション学科では、公開授業を実施し、関係団体にも概ね周知されてきた。教育関係の見学者も多数ある。国際学科では、関係業界では、帰国子女振興財団の事務局となっている。	3.5	「方針」は表現・コミュニケーション学科生には「なんだろう」と思うかもしれない。しかし実践としてやっていることが評価できる。国際学科は毎週、スクールモットーチェックがあるので、生徒自身も振り返るチャンスがきちんとできている。
1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する分野のニーズに向けて方向づけられているか	3.8	1-5 在校生保護者のアンケートから「人」として育つ内容になっているかに対して、80%が適切と返答している。国際学科は外国籍の編入生が入学できる数少ない学校となっている。※今後の改善策 教育目標、育成人材像が時代に合ったものになっているか、YMCAらしさとあっているかを絶えず確認する	3.75	不登校、発達障がい、ボーダーの生徒、帰国子女、外国籍など、社会の弱者のニーズに対応している。国際学科においては、日本国においての英語の必要性に対応したカリキュラムになっている。
(2) 学校運営	3.1		3.2	
2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.5	運営方針、意思決定機能は明確であるが、法人全体の人事・財務等を把握していない教職員がいる。	3.75	
2-2 運営方針にそった事業計画が策定されているか	3.4	2-2 法人全体での10年単位のビジョンに基づき中期事業計画を立て、学校の年度単位の事業計画を策定し、学校運営を行っている。	3.3	学校の運営方針は明確になっており、教職員に示されている。
2-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	3.2	2-3 事業計画は、理事会・評議員会で意思決定され、学校事業責任者会議がそれを受けて具体的な運営を行う。各課程・学科の責任者が部門の目標、役割を明確にしつつ、部門同士の連携を図りながら運営し、部門の所属スタッフは、責任者より示された職務分掌に従い目標を理解し、役割と責任を果たしている。	3.75	大阪YMCAにはビジョン2020が設定され、行動指針が明確であり、教職員の研修で利用、啓発されている。
2-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか	2.9		2.6	運営にあたり、「チーム」の質問がない。学校関係者が評価するためには、この質問がほしい。学校運営にはチームが不可欠であるが、両学科とも「チーム運営」という面では長けている。
2-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	2.9	2-4,5 常勤者の採用・人事・研修(一部非常勤対象)等に関しては、大阪YMCA総体の統括本部が、また非常勤者等の採用や人事に関しては各学校が管轄している。	3	

2-6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.4	2-6 自己点検・自己評価、学校関係者評価および財務情報はホームページで公開 日常的な教育活動もホームページやFacebookで発信されている。 2-7 大阪YMCA本部のICT室で全事業所の業務管理と効率化を図るとともに、本校でIT専門の専任教職員を置き、部門の事情・特徴に応じ対応する。ICTは日進月歩で、毎年効率よい業務改善を行おうとしている	3.3	
2-7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.6	※今後の改善策 人事・給与と就業規則の見直しが行われている。	2.6	
(3) 教育活動		3.4		3.3	
	(目標の設定等)				
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.6	3-1,2 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施等は、それを具現化するために編成している。	4	
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.3		3.75	
	(教育方法・評価等)				
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.4	3-3,4,5 ・時代のニーズと生徒たちの構成にあわせ、ゴールを明確にし、カリキュラムに反映させている。カリキュラムは毎年見直しを行い、時代のニーズに対応している。	3.5	
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.5		3	SSTなど特色ある科目があり、キャリア教育の一環である。SSTを軸とした活動は他にはないと評価している。
3-5	関連分野の関係施設等や関係団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか	3.1	3-5 職場実習については、希望者のみならず必要とされる人に実施をし、実習前研修、ライフスキルの授業など体系的に行っている。幸いにも現在は受け入れ企業をなんとか確保できている状態である。	3	
3-6	関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ、実習等)が体系的に位置づけられているか	3.7	3-6 国際学科で2年次に40時間のインターンシップを実施。実習先やマッチングなど、2年目となりやや定着しだした。	2.75	3-6 国際学科でインターンシップは2年目となった。インターンシップ先でうまくいかない場合、カリキュラムに反映する仕組みをつくっていく必要があるのではないかと。
3-7	授業評価の実施・評価体制はあるか	2.86	3-7 さちんとしての評価の基準ができていない。表現・コミュニケーション学科は授業見学を行い、教員同士で授業評価を行った。	2.75	学校評価について、ポイントが低い。今後授業評価の基準を作っていくかなければいけない
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.53	3-8 昨年は「3.45」であったものが微増。判定基準は文書で明確になっている。 今後の改善策:授業評価の実施・評価体制の検討	4	
	(資格試験)				
3-9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.29	資格試験、教職員の項目はすべて昨年度より高評価となった。特に、研修には力をいれた成果と推察する。	4	
	(教職員)				
3-10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保している	3.47		3	専門職を人材にいれるのは難しい場合もある。適切な人数をおくだけでは回らない。YMCAでは総合職が人をつなぐ役割をしている。
3-11	関連分野における機関等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するマネジメントがおこなわれているか	3.42		3	チーム運営には人材確保が重要である。国際学科は異動もあった。足りない部分の補填だけでは難しい。ムーブメントには「渦」が必要。この「渦」を起こせる人が必要である。
3-12	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3.29	3-12,13 教職員の研修は、職員と専任教員に対しては大阪YMCA全体で、安全研修と人権研修がそれぞれ年二回実施されている。2017年度は特に担任力アップのため3回の連続研修を行った。また高等課程主催の一般教職員向きのセミナーや所属団体が実施するカウンセリング研究会やモデル校見学、教員研修等には積極的に参加するよう案内をしている。また初めて公開授業を行うことにより、教員の技術のスキルアップをはかった。	3	
3-13	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.58		3.75	
	(特別活動等)				
3-14	クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか	3.13		2.75	
3-15	学校内外の活動の情報提供を行っているか	3.35	3-16 保護者会の頻度・情報について在校生保護者は98%が適切・やや適切、卒業生保護者は94%となっている。	3.25	表現・コミュニケーション学科では保護者交流会に卒業生保護者に来てもらい、卒業生保護者が文化祭に出店するなど卒業後も学校とよく連携ができて
3-16	保護者会等と連携した活動を推進しているか	3.67	※今後の改善策 授業評価の方法や内容について、今後協議・実施していく。	4	いる

(4) 学修成果		3.6		3.5	
4-1	進学率や就職率の向上が図られているか	3.9	4-1 進学率の向上について 本校では、課程の特色にもとづき、進学希望者には大学担当者(国内・海外)、専門学校担当者、職業訓練校担当者が、生徒一人ひとりの希望に応じて、計画的に実施している。	4	手厚くしているが、保護者には理解されていないのではないか。「思いを語る」のではなく、数値で具体的なものを保護者に示すことがよい。客観的でわかりやすいものが保護者は求めているだろう。また親のヒアリングも必要である。
4-2	資格取得率の向上が図られているか	3.6		3	
4-3	退学率が5%以下であるか	3.6	4-3 昨年よりポイントがあがっている。入学前から慎重なマッチングを行っているため、退学率は2.3%となっている。	3.75	
4-4	学習の定着が図られているか	3.5	4-4 在校生アンケートによると「授業はわかりやすい」87%、「授業は興味深く、受けている」と81%と教員が学習の定着を図るよう努力していることがみられる。習熟度別、アクティブラーニングの結果と見ている。	4	
4-5	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握している	3.7		3.25	
4-6	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.5	※ 今後の改善策 一学科は卒業後のフォローアップを体系的に行っているが、両学科ともそのことを行う。活躍している卒業生に学校の教育活動に寄与してもらっているが、個人レベルのつながりで行っていることが多く、学校として繋げられる方策を考える。	3	
(5) 生徒支援		3.5	5-1,2,5,6	3.3	
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.6	本校では、国内外大学・専門学校への進学相談をする複数の進路指導担当者と、各クラス担任を配置して、一人ひとりの志望と能力資質に合せて進路指導と生徒相談への対応を行なっている。	3.5	生徒の課題や特性に合った支援ができていると教職員は自負しているが、親はできていないかと思っていないか。保護者はどんな進路指導を望まれているかを考える必要があるのではないかと。生徒支援は安定している。YMCA総合教育センターをはじめ、YMCA内部に専門家がいます。外部に相談することなく中で連携を取りながら解決できることは、生徒・保護者、そして教職員にとってかなり有益なことである。ここへの評価があっても良い。また少人数の学校ながら、保健室・カウンセリングルーム・フリールームがあり、心・身体・トータルの管理を行っていることや、生徒の主治医とも常に連携をとろうとしていることは評価できる。
5-2	生徒・保護者からの相談体制は整備されているか	3.8		3.5	
5-3	生徒に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.5	5-2 「教職員は親身に相談にのってくれる」85%、「いつでも相談できる場所がある」76% と評価が高い。「進路について適切な相談や情報提供がある」は70%となっている	3	
5-4	生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	3.5	5-4 保健室に常勤の養護教諭がいる。また毎年健康診断、レントゲンを行っている。生徒の主治医とつながるケースも少なくない。	3.25	
5-5	課外活動に対する支援体制はあるか	3.6	5-6 表現・コミュニケーション学科では大学生から年配の方まで多様なボランティアが授業や休み時間に入り、生徒のサポートをしている。国際学科には日本語の苦手な生徒には、国語、歴史等はとりだして日本語指導をおこなうと共に、別の授業による良質の出会いの場を提供している。	3.5	
5-6	生徒の生活環境への支援は行われているか	3.5		3.5	
5-7	生徒の課題や特性にあった支援ができているか	3.9	5-7 課題や特性をもつ生徒が多くいることから、丁寧な支援を行っている。隣接する総合教育センターとの有機的な連携ができている。	3.75	
5-8	保護者と適切に連携しているか	3.9	5-8 定期的な保護者会がある。表現・コミュニケーション学科は2ヶ月に1度の保護者交流会、国際学科ではPTAが組織している。	3.75	
5-9	卒業生への支援体制はある	3.4		3	
5-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.9		3.25	
5-11	高校・高等専修学校／専門学校等との連携によるキャリア教育・職業訓練の取組が行われているか	3.4	5-8 同窓会組織、卒業生と在籍生の山登りクラブ、ボランティア活動など多岐に渡って卒業生が活動できる場がある。また表現・コミュニケーション学科では卒業後の成人祝賀式を行っていて、卒業生保護者からも感謝されている。 ※今後の改善方策 高校・高等専修学校／専門学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組については、特定の学校のみとなっているので、今後広げていく。	2.75	
(6) 教育環境		3.1	6-1 設置基準に基づき、快適に学習に専念できるスペースと施設・設備を確保、それらの整備状況を常に把握し、使用計画、使用案内を行っている。機器・備品については、各部屋にプロジェクトを設置したいと考えている。「校内の施設や設備は充実している」は「適切」28%、「やや適切」44%と他の項目に比べて低くなっている。	3.4	ICTを進めるために天井へのプロジェクト設置を試みたが、複数教室で業者から構造上できないといわれたと報告を受けたが、他の方法を模索する必要がある。またすでにあるスクリーンが古くなって見栄えが悪い。教育環境を考えると、早く新しいものにかえる必要がある。
6-1	施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.5		3	
6-2	学校内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.5	課題は、教室以外の休憩スペースや食事場所等が手狭になってきていることである。2017年度は机、いす100セットの入れ替えと、2教室の壁面塗り直しを行った。	3.75	
6-3	学校内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場について十分な教育体制を整備しているか	3.5	6-2 学外実習やインターンシップに積極的に取り組んでいて、生徒の進路や生き方に反映している。国際学科は2016年度よりインターンシップに関しては、本格的に開始した。今は海外や日本の大学生のインターンシップも受入、生徒にとって異年齢の出会いを提供している。	3.75	
6-3	防災に対する体制は整備されているか	3.1	6-3 大阪YMCA全体で作成の「安全管理ガイドライン」に基づいて作成した本校の防災マニュアルに従った要員配置と役割明確化により法令に基づいた防災訓練を行う。従来の火災対応に加え地震津波の想定にも対応した訓練を加えた。要員の異動による変更は毎年確認し、責任を明確にしている。 ※今後の改善方策 安全・防災には入念に対策を取っているが、学生のアメニティの視点で、老朽化した設備のメンテナンスを行なう。また教育のICT化を進め、生徒にとって学びやすく、より学習の定着を図りたい。	3.25	防災訓練は定期的に行われており、教職員を対象として安全研究会を年2回開催しており、防災についても準備は十分出来ていると判断する。食料等の備蓄も開始され、充実してきている。

(7) 生徒の受入れ募集		3.6	7-1 生徒募集活動について	3.6	
7-1	高等学校/中学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	3.7	本校では、生徒の募集活動について、その内容や手法においては教育機関としての節度を持ち、適正に行うよう努めている。広報に用いるパンフレットやWebサイトは、教育内容、進学状況等が、生徒や保護者の立場からわかりやすく理解できることを常に意識し、作成している。学内における説明会や個別相談に対して、適切な対応ができるための研修を行い、相談後も入学に至るまでのフォローアップも行っている。	3.75	きめ細かく丁寧なケア、少人数の教育から考えると生徒納付金は安価であると思える。
7-2	生徒募集活動は、適正に行われているか	3.6		3.5	両学科の施設設備費が違う。あわせられないか。
7-3	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.4		3.5	
7-4	生徒納付金は妥当なものとなっているか	3.6	7-2 入学選考について 入学選考を適正かつ公平に行うため、入学募集要項に入学選考方法の基準を記載している。 7-4 学納金について 理事会・評議員会において、各課程・学科における入学金、授業料、実習費等の学納金が、学生・生徒の人数、教育内容、教育環境に照らし妥当なものであるかどうかの検討を経て、決定している。	3.5	
(8) 財務		3.2		3.5	
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	8-1 大阪YMCA全体の統括本部財務と学校事業本部が連携して、学校の財務基盤について中期計画を立て、執行状況に関しては毎年半期ごとの理事会・評議員会のチェックを経て財務状況、資産内容や資金内容の管理を行っている。	3	財務は、聖域となって情報が無い。特に国際学科は経営的な面の情報を教職員に伝える方が良い。学科改編後にどうなっているかは関心があり、財務情報の共有は必要である。表現・コミュニケーション学科は経営的にやれていることを教職員が知っている。なので、運営に自信をもち安心して業務に取り組める。
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.2	現在は、専門課程の入学人数が急増し、安定した収入基盤となっている。	4	
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	3.4	8-2 予算収支は中期計画、年度計画に基づいて執行し、その妥当性は理事会・評議員会でチェック、予算の問題点や今後の動向について業務組織に対する指摘が行われる。	3.6	専門学校の増収と高等課程は関係ないと思われる。教職員にはこのラインを切ったら厳しい、ということなどは共有したほうが良い。またこれを維持していたらOK,ということなども共有することで、モチベーションにつながる。
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	3	8-3 学校評価公開にあたり、財務情報の公開も行っている。ごとの理事会・評議員会のチェックを経て財務状況、資産内容や資金内容の管理を行っている。 ※今後の改善方策 現在は専門課程の増収で運営状況がよくなっている。高等課程も自立した運営にはなっているが、安定的に持続可能な事業としていく。	3.3	
(9) 法令等の遵守		3.7	9-1 本校では、学校法人の学校事業本部、大阪YMCAの複数法人を取り纏める本部事務局のそれぞれが法律の専門家を顧問として配置し、新制度や規則の制定、各種届出などの際に多角的なチェックを行うなど、法令等を遵守する体制を構築するとともに、学校事業本部、本部事務局への報告を通して運用が適切であるかどうかを検証している。	3.8	
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.5		4	・統括本部にて、法務・会計・労務等の専門家を配置し、専門学校だけでなく、すべての事業の法令順守において管理をしている。個人情報管理などについても、公益財団法人・社会福祉法人と共同で研修を実施している。安全研究会・人権研究会を全職員対象に年3回実施している。その都度、法律等の専門家より研修を受けている。
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.9	9-2 2005年以来、大阪YMCAが組織全体で定めた個人情報保護ガイドラインにもとづき、学校に必要な個人情報の保護を、学校事業本部主導のもとに運用し、毎年の講師会において常勤者・非常勤者ともにそのルールについて注意喚起を行い、個人情報の保護に努めている。評価も高くなっている。	3.75	
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.5		3.5	
9-4	自己評価結果を公開しているか	3.6	9-3 全国のYMCA専門学校グループとして2005年から独自の自己点検・自己評価を行ってきた。2008年度から実施と公表の義務化あわせ、積極的に公開している。また、今後第三者機関の意見を取り入れることが課題である。	3.75	
(10) 社会貢献・地域貢献		3.57	10-1,2 本校では、YMCAの特色を活かし、多くの社会活動に取り組んでいる。学校行事としてのボランティア活動はもとより、YMCA全体行事として、また土佐堀YMCA地域調整委員会との連携、YMCAのサポートクラブであるワイズメンズクラブとの連携、地元西船場地区との協働や西成や生野(いずれも大阪市)地域、淀川キリスト教病院での社会貢献活動を生徒が行っている。2017年度は地域のレストランと生徒が連携し、「子ども食堂」を学内で開催し110名の参加があった。2018年度も継続的に行う。10-3地域に対する公開講座も専門性を生かした講座を年3回行った。また、講師派遣、教育機関への巡回相談、親の会からの要請の説明会も行った。	3.42	地域の西船場納涼祭での屋台を生徒たちが担ったり、2017年度は近隣のレストランシェフと協力して、子ども食堂を一步進めた「上田kichien'sY」を開催し、100人以上の子ども・家族が集まった。2017年度は2回しかできなかったが、2018年度も継続して行うことは評価できる。卒業生なども積極的に参加していることも評価できる
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.58		3.5	
10-2	生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.88		3.75	
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3.24		3	また生徒の広報委員会をたちあげ、ボランティア活動を推進し、生徒の自主性・自発性を育てている。2017年度は公開授業も行い、中学教員の学びの場となった。
(11) 国際交流		3.8	11 学内に留学生が400人以上いることや、国際学科においては在籍生の中に外国籍、外国にルーツのある生徒が5割、またYMCAインターナショナルスクールをもつ組織であり、世界の120の国と地域にYMCAがある組織という恵まれた環境を生かし、生徒の国際交流クラブも活性化している。 ※ 今後の改善方策 学内が地球であるという考えのもと、今後も多様性を生かし、生徒たちがグローバルな視点で平和を考えていけるように、その機会を地域の人たちにも一層提供できるように考える。	3.9	国際学科は4分の1が外国にルーツをもつ生徒で、11国籍の生徒がいる。在学中にデンマーク、ニュージーランド、台湾、香港への国際交流プログラム、留学が可能で、多くの生徒が活用している。専門課程に留学生が400人おり、行事なども一緒にしていることにより、日常的に多様性を受け入れることが当たり前となっている。
11-1	外国籍や外国にルーツを持つ生徒も入学しやすい状況	3.8		4	
11-2	YMCAのネットワークを活かした国際交流プログラムを行っているか	3.9		4	
11-3	外国籍生徒の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3.8		3.5	
11-4	留学生・外国籍生・海外交流プログラムなど多様性を生かした行動を行っているか	3.8		4	
全体平均		3.5		3.5	